

令和6年度 自己点検・自己評価ならびに学校関係者評価結果

評価基準 当てはまる:3 やや当てはまる:2 当てはまらない:1

I 教育理念・教育目的

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・教育目的は、養成する理学療法士、作業療法士が卒業時点においてもつべき資質を明示している	3.0	教育理念・教育目的は卒業時にもつべき資質を明示している。学生便覧に記載されており、各学科の3つのポリシーにより明確に示されている。教育理念・教育目的は学生便覧に示されており、各種オリエンテーション時に伝えるようにしている。学生便覧の使用機会を増やし、具体的に理解できるような説明に努めているので学習の指針になっているが、学生の認識、利用としては十分とはいえない。教育理念・教育目的は本学院の教育上の特色を明示している。学生便覧の他、パンフレット等の配付物やホームページに掲載、各種説明会で説明している。	・適宜学生への周知	・教育理念・教育目的は、明示されているが、学生には伝わりにくく、これも先輩の授業などで知らせていただきたい。
2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている	2.7			
3	本学院の教育上の特色を明示している	3.0			

II 教育目標

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している	3.0	教育目標は学生便覧に明示され、実践者および学習者の両側面から設定されている。教育目標に沿ってカリキュラムを編成しており、教育内容を概ね網羅している。具体的な表現はされているが、一部実現可能性の判断が難しいものもある。教育目標は、教育理念・教育目的の一貫性がある。	・特記事項なし	・適切に設定されており、問題ない。・具体的な表現で理解できる内容となっている。
2	教育目標は、設定した教育内容を網羅している	3.0			
3	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている	2.8			
4	教育目標は、教育理念・教育目的の一貫性がある	3.0			

III 教育経営

III-1 教育課程編成者の活動

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価との関連性を明確に理解している	2.7	教育課程と授業実践、教育の評価との関連性については、科内での討議や委員会での検討を通して理解に努めているが、教員の理解度には差があり、全体が明確に理解するまでには至っていない。ミーティングを通して一貫した活動を行えるように努力しているが、教員間で十分な共通認識が得られているとは言えない。	・特記事項なし	・教育課程編成者と教職員全体の教育理念・教育目標の達成に対する理解度を増すには、日頃のコミュニケーション、風とうしのよい学校とする。
2	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	2.6			

III-2 教育課程編成の考え方とその具体的な構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	2.8	明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。各教員が十分に理解しているとは言えず、情報の共有は必要である。	・特記事項なし	・自己評価について特に問題なし

III-3 科目、単元構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している	2.7	明確な考え方と根拠をもって科目、単元は構成しているが教員の共通認識としては十分とは言えない。科目と単元は教育理念・目的、教育目標と整合性があるが、不十分な科目もある。構成した科目は概ね妥当と思われるが、社会情勢の変化に応じた対応は必要である。構成した科目は本学院の特徴を表しており、国立病院機構職員による講義や政策医療に関する単元、早期からの臨床見学など国立病院機構の特色を生かした授業が構成されている。	・特記事項なし	・現状はわかりませんが、国立病院機構が取り組む医療に特化した内容と国立病院機構では扱わない医療の内容がバランスよく配置されていればよい。
2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している	2.6			
3	科目と単元の構成の考え方は、教育理念・目的、教育目標と整合性がある	2.6			
4	構成した科目は理学療法士、作業療法士を養成するのに妥当である	3.0			
5	構成した科目は本学院の特徴を表している	2.9			

III-4 教育計画

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位履修の方法とその制約が教員・学生の双方がわかるように明示され、その方法が学生の単位修得の支援となっている	2.9	単位履修の方法とその制約については学生便覧等に示されており、オリエンテーション時に説明する等周知に努めている。シラバスに学習方法及び配点を詳細に明記しており学生支援に繋がっているが、分かりやすさ、順序性など工夫が必要である。学修の質を維持できるように科目を配列しているが関連性、順位性、履修する学年等の調整が必要である。委員会の開催により学外の関連分野関係者と連携し、カリキュラムの検討は行っているが、継続した見直しは必要である。	・特記事項なし	・自己評価について特に意見なし
2	理学療法士・作業療法士になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている	2.5			
3	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている	2.9			

III-5 教育課程評価の体系

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位認定の基準は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	2.9	学則により単位認定の基準は明確であり、必要な学習を認めるものとして妥当と思われる。単位認定は基準に基づき、期末試験、レポート、特別試験等で評価され、議論が必要な場合は学科内で十分におこなない運営会議で承認されている。しかし、科目、講師によって単位認定基準の難易度に差があるなど検討を要する場合がある。他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えており、単位認定が行われている。	・特記事項なし	・自己評価について特に意見なし
2	単位認定の方法は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	2.7			
3	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	3.0			

III-6 教員の教育・研究活動の充実

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	2.4	教員が専門性を発揮できるように、担当科目と時間数の配分を調整しているが、人事異動等により専門性が十分に発揮できないことはある。業務の効率化やシフト勤務等で工夫しているが授業や学生対応の他に係等の業務量が多く、授業準備の時間を確保することが難しい状況は継続しており、課題である。 研究授業や教授方法の検討など相互研鑽の機会を設けているが、頻度は少なく相互研鑽のシステムとして十分に機能しているとは言えない。 閉校に向けて、学事は減ることで、教育・研究活動に繋がるように考える必要がある。	PT学科 ・閉校に向けて学事、学生数も減ることをは汎化 OT学科 ・継続して課題意識を持ち検討していけるように、年間計画を立て実施する。	・教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えていることは、例年低い点数にあります。資料作成にAIの導入はどうか。 ・III-6-1教員能力による時間数の配分差が生じることでカリキュラム進捗に影響があるか。 ・教員が異動職種であるがゆえの弊害、内部評価が低くなる要因かと思う。
2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている	2.0			
3	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている	2.5			
4	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	2.3			

III-7 学生の理学療法、作業療法実践体験の保障

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	臨床実習施設は、本学院の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解しているか	2.6	<p>実習の手引きをもとに、実習指導者説明会や実習地訪問の際に説明し周知に努めている。説明会は昨年に続きコロナウイルス感染症によりオンラインで実施。本学院の特徴はおむね理解されていると思われるが、実習施設・実習指導者により理解度に差がある。CCSの導入により、施設間、指導者間での認識の差が大きく、調整が必要。学生の状況に応じて電話連絡、WEB面談、土曜日の情報共有等を行い、適切な時期に実習地訪問を行う等の体制を整えている。</p> <p>指導者の役割は、臨床実習に向けてのオリエンテーションや個人情報保護法の説明を行うとともに、実習の手引きに明示して伝達している。臨床実習において学生が関係する事故等があった場合、ヒヤリハット報告書の作成及び実習指導者からの情報収集等により、状況を把握し、原因分析を行い対策を講じるとともに、学生にも周知している。リスク管理・感染管理に関する講義を実施しており、臨床実習に関しては、実習の手引きに明示し、オリエンテーション時に説明するなど、計画的に指導している。</p>	<p>PT学科 ・CCSの導入に伴う、到達目標、指導方法等において周知、調整 ・実習前後評価(教育過程編成委員会) OT学科 ・実習施設、実習指導者による差が大きく、実習課題や進め方等において整理が必要であり、実習指導者に具体的に提示できるように準備を進める。</p>	<p>・最近の臨床実習の学生について、積極的でない印象がある。実習では、学生には積極性があり自分から話しかけられる姿勢が求められるので、そこについても学院の中で指導しながら連携が図れるとよい。</p>
2	臨床実習施設は学生の理学療法、作業療法実践の学習を支援する体制を整えているか	2.9			
3	臨床実習指導における学生の学びを保障するために、臨床実習指導者の役割を明確にしているか	2.9			
4	臨床実習指導者と教員の協働体制を整えているか	2.8			
5	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示しているか	3.0			
6	臨床実習において学生が関係する事故を把握、分析しているか	2.9			
7	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか	3.0			

IV 教授・学習方法

IV-1 授業内容のまとまりの考え方

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	2.8	<p>授業内容は各学科内で検討し学生に合わせて設定している。妥当性を持つよう努めているが重複、整合性、発展性において十分とは言えない。整合性等については、学事として講義、実習等の観点からどうしても意にそぐわない時期になることもある。教科担当を超えた講義内容の継続性については、常に考慮する必要がある。</p>	<p>PT学科 ・臨床実習の支援(教育課程編成委員会報告) OT学科 ・学生の能力評価結果に基づいた学習方法の導入</p>	<p>・授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっているの項目が低い点数ですが、修正は難しい過程なのか。院内と院外講師の重複もあり得るのか。AIに授業をさせるのは、難しいか。 ・整合性を保ちながら、大切な内容は重複していてもよい。</p>
2	授業内容のまとまりは、理学療法、作業療法学の教育内容として妥当性がある。	2.7			
3	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている	2.1			

IV-2 授業の展開過程

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じて選択している。	2.8	<p>授業内容に応じた選択の共有に努めているが、担当教員に任されているところが大きいので、常に情報共有と必要に応じた修正は必要である。各学年においてセミナー、口頭試問、学年間での取り組み、チューター制等学生の状況に応じた学習支援に努めている。個別対応についても教員相互で対応することも増えている。ミーティングや教員間で情報共有し、協力して教育・指導に努めているが、付加業務、異動もあり協力体制には継続して取り組みが必要である。</p>	<p>PT学科 ・実習前後の学生能力評価の継続(教育課程編成委員会報告) OT学科 ・演習における授業展開や評価方法の検討、およびその効果検討の継続(教育課程編成委員会報告) ・臨床実習前後における学生能力評価および評価結果への対応の検討(教育課程編成委員会報告)</p>	<p>・どのような授業形態や展開が最も有効な方法なのかは私自身はよくわかっていませんが、学生の意見も聞きながら色々なバリエーションに富んだ授業形態が用意されていれば魅力的な学校になるのではないかと。 ・教員間での検討が必要と思われる。 ・学生による授業評価の捉え方は個人差もあるため学科内で妥当性の検討をすることが重要ではないか。 ・検討・改善を切り返し、よりよいものへと努力されている。 ・授業の資料とスライドにズレがあることについては今後見直してほしい。</p>
2	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	2.6			
3	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている	2.7			

IV-3 目標達成の評価とフィードバック

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	評価計画が立案・実施され、評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	2.5	前期・後期に学生による授業評価、学科内での検討を通して改善に努めているが、共通のツールはなく教員に任せられている面があり学科としての取り組みが必要である。多面的な評価に繋がるように検討しており継続した課題である。評価基準と方法は学生便覧、シラバスに明示され、公平性が保たれている。	PT学科 ・学年毎の到達目標の整備、実習前後の学生能力評価の継続(教育課程編成委員会) OT学科 ・包括的な学生の能力評価の検討(教育課程編成委員会)	・自己評価について特に意見なし
2	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている	2.5			
3	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表し、単位認定の評価には公平性が保たれている	2.9			

IV-4 学習への動機づけと支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	シラバスの提示は、本学院全体としての一貫性があり、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.7	シラバスは一貫性があり、授業内で授業目標を確認するなど学生支援の動機づけに繋がっている。記載内容、活用度、整合性については継続して修正が必要である。学生へのアンケート等は未実施。	・シラバスの科目ごとの整合性を図り、学生の指針となるように修正を継続	・自己評価について特に意見なし

V 経営・管理過程と財政

V-1 設置者の意思

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の管理者(主事以上)は教育理念・教育目的についての考え方を明示している	3.0	学則、学生便覧、中期計画、経営管理目標等で明示され病院目標及び学院、学科目標にも反映されている。機構本部の養成機関への考え方は、中期計画に示されているが教員間の理解には差がある。	・特記事項なし	・自己評価について特に意見なし
2	本学院の管理者(主事以上)は教育課程経営についての考え方を明示している	2.8			
3	本学院の管理者(主事以上)は本学院の管理運営等についての考え方を明示している	2.8			
4	教職員は本学院の設置者(機構)と管理者(主事以上)の考え方を理解している	2.6			

V-2 組織体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている	2.7	組織体制は明確になっているが、教員の役割機能においては十分とは言えない。意思決定システムとして学科内会議、学院運営会議が設けられており、意見を述べられる環境はつくられている。R5は、理学療法学科で5名、作業療法学科で2名の臨床参加を実施し質の向上を図っている。	・教員の臨床参加の継続と拡充	・自己評価について特に意見なし
2	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている	2.7			
3	教職員の資質の向上にむけての施策には教育理念・教育目的達成の整合性がある	2.8			

V-3 財政基盤

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である	2.6	政基盤の確保に関する考え方は明確であるが、厳しい状況が続いている。幹部会議、管理会議、診療会議の報告及び決算報告や各種資料により理解に努めているが、十分とは言えない。教職員はミーティング、運営会議等で意見を出すことができるが、業務が多岐に及び教員が財政的視点で考える環境には至っていない。	・特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備等、ハード面の整備については難しい状況であることは、理解できる。AIを含めたソフトの導入など取り組めないか。 ・経費の無いところで十分努力されていると思う。自己評価はもう少し高くても良い。 ・財政状況が厳しいところ、取り組みがなされている。 ・国立病院機構に依存する財政基盤の下で臨床現場にも協力を頂いている。 ・厳しい財政状況下で、適切に実施されている。
2	教職員は、本学院がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している	2.4			
3	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている	2.4			

V-4 施設設備の整備

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	学習・教育環境の整備について、管理者(主事以上)の考え方を明示している	2.9	必要な機材等は適宜、更新されており、年計画として整備案を作成している。老朽化、冷暖房、和式トイレなどのハード面の整備は予算的に難しい状況であるが、R4に空調設備更新を実施。 東名古屋病院の防災訓練に参加、学生寮の防災マニュアルを策定し防災体制の整備を行いR4から避難訓練を実施。	・特記事項なし	・自己評価について特に意見なし
2	管理者(主事以上)の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している	2.5			
3	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している	2.3			
4	防災に対する体制を整備している	2.8			

V-5 学生生活の支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている	2.8	学生生活の支援として、定期健康診断、学生相談会、寮生活の支援、奨学金利用の手続き、専門実践教育訓練給付金利用の手続き等、支援体制の整備に努めている。施設整備等、ハード面の整備については経営、組織上難しい状況。現在実施している支援は活用されており、学習の継続に繋がっているが、留年、精神的に不安な学生に対してはさらに細やかな支援が必要である。	・個別支援の充実	・自己評価について特に意見なし
2	支援体制は、実際に学生に活用され、学習の継続を助けている	2.8			

V-6 本学院に関する情報提供

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている	3.0	入学時の説明の他、学事や経費に関する文書の送付等に関する連絡、成績不良者への個別連絡、訪問など、適宜情報提供を行っており協力・支援に繋がっている。HP上に保護者へのお知らせを作成し、適宜更新している。ホームページ、病院ニュース、年報、研究発表等、活用できる資源を用いて広報活動を継続する。	・特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に保護者等との関係構築に努めている様子がわかる。今後も保護者等の関係づくりを進めていただければ良い。 ・V-6-3 現在愛知県作業療法士会としても一般に対しての広報活動の必要性を強く感じ、次年度に向けていろいろと準備を整えている。
2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている	2.9			
3	理学療法士、作業療法士を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている	2.1			

V-7 本学院の運営計画と将来構想

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している	2.8	機構本部が、中長期計画、NHOビジョンを策定し共有している。運営方針は毎年度評価として機構本部に提出している。 R9年3月31日をもって閉校。	・特記事項なし	・将来構想が現場主導ではないと思われる、且つ、財政面と施設整備は厳しい状況が容易に想像できハード面の課題は多い。

V-8 自己点検・自己評価体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している	2.9	自己点検・自己評価の意味・目的に対する理解が進み、評価・点検に必要な資料も整備されている。毎年、実施する体制を整えており、改善点を見直しながら運用している。評価結果について共有し、次年度の改善へ向けた目標を作成し一定の機能は担保されているが、管理運営や授業実践へのフィードバックとして活用するには至っていない。R6は、学科ごとに具体的な個人目標を設定したが、一定の効果はあったものの継続するかは課題である。	・評価項目の優先順位と具体性の検討	・多面的に評価されている。低い点数の項目はあるが、本来の教育的運営にしっかりと努力している。 ・点検・評価内容を精査して一つ一つの意味を考えて取り組むことが大切である。
2	自己点検・自己評価体制を整え、運用している	2.9			
3	自己点検・自己評価は、本学院のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している	2.7			

V-9 法令等の遵守

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	3.0	法令、基準を遵守し、適正な運営がなされている。個人情報保護に関して適宜教員が研修を受けるとともに、学生に周知を図っている。	・特記事項なし	・自己評価について特に意見なし
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	3.0			

VI 入学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・目的との一貫性から入学者選抜についての考え方が述べられている	2.8	入学者選抜には、教育理念・目的との一貫性から、アドミッションポリシーを明示している。入学者状況や入学者の推移について分析・検証し翌年に活かしているが、入学者選抜方法の妥当性や教育効果の継続的な視点は不足しており、検討が必要である。	・R7年度より学生募集停止 (R9年3月31日閉校)	・愛知県など、リハビリの学校が乱立している中で、選ばれる学校像を作り上げるのは、難しい。 ・入学者の選抜について工夫をしていることがわかる。 ・入学数の確保に努力されている。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証されている	2.6			

VII 卒業・就職・進学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている	2.6	卒業時の到達状況は、単位認定、国家試験の合格率等から総合的に判断している。卒業試験等は実施しておらず、CBTやOSCEなどはさらに検討が必要である。就職、進学状況は把握しているが、十分な分析には至っていない。国立病院機構への就職率は、目標との整合性を認め、卒業時の到達状況や他機関への就職状況も概ね合致している。 卒業生への支援体制は、ホームページへの掲載や同窓会、卒業1年のグループLINE等を実施しているが、十分とは言えない。	・特記事項なし	・閉校後の支援体制はどのようになるか。 ・卒業生の到達状況は、卒業前の民間の模擬試験などでは、客観性はだせないか。 ・卒業の状況や機構への就職状況から十分にその責を果たされている。閉校後の国立病院機構の採用が心配である。 ・コミュニケーション能力など医療人に求められるスキルを学んでいる。 ・実習地訪問などで卒業生が立派になった姿などを見て感じてもらうこともよい。 ・今年度から教員に機構病院に向向いて職員教育を実施していただき教授方法や臨床でのアドバイス等とても有益である。 ・就職について一般に良いところに就職している印象を受ける。国立病院機構や公的な病院にも多く就職しており今後も継続が望まれる。学院の歴史や信頼も関係していると思われる。
2	卒業時の到達状況を分析している	2.3			
3	卒業生の就職・進学状況を分析している	2.4			
4	卒業生の到達状況、就職・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある	2.2			
5	卒業生への支援体制がある	2.7			

VII 地域社会／国際交流

VII-1 地域社会との連携

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している	2.0	地域のニーズを把握する具体的な方策が未達成であり、継続した課題である。コロナ後、老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、介護用品ショップ、福祉工場、作業所などの見学や、老人保健施設でのレクリエーション等は少なくなっている。公開講座、老人保健施設でレクリエーション、学生有志のボランティア活動等はコロナ前に戻っていない。 R3よりオンラインでの公開講座を実施しているが、地域社会への発信はHPに限られており継続した課題である。R4から看護大学への講義、R6から認知症のサポート講習会等の機会は、取り入れている。	・継続して取り組める事項を検討していく。	・VIII-1-1~3 患者さんやその家族がどのようなニーズを持っているのか、地域包括支援センターの方等にお話を伺ってはどうか。その中になんとかのヒントが隠れている。 ・地域社会との連携は、地域という概念が広すぎて難しい。やはり、地域および世界で活躍しているPT,OTの情報(YouTubeを含めて)を集めて、世の中にはこのような活躍をしていることを伝えることはできないか。 ・地域での諸資源を経験できる機会をできるだけ多くあることが望まれる。 ・コロナ禍で落ち込んで以降、依然として回復していない。そもそも弱いところかと思う。 ・他校では、地域に向かうような取り組みをされているところがある。例えば老人会や子供会などに参加することもよいのではないか。
2	理学療法、作業療法教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	2.1			
3	本学院から地域社会へ情報を発信する手段をもっている	2.2			
4	地域内における諸資源を本学院の学習・教育活動に取り入れている	2.4			

VII-2 国際交流

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している	2.8	JICA見学や海外派遣経験者による講義を取り入れているが、十分とは言えない。英文雑誌、インターネット環境などの整備はあるが十分ではなく、特にハード面の更新は常に課題である。	・継続して取り組める事項を検討していく。	・取り組みはなされているが、特に国際交流の面では難しいと思われる。
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている	2.2			

VIII 研究

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している	2.0	学院内での予演会や研究授業を通して助言・検討の場があるが、研究活動を継続的に助言・検討する体制は整備されていない。教育や管理・運営業務に重点が置かれ、研究の優先度は低い。年間教育計画で総合医学会などで毎年発表しているが、支援し合える文化的素地があるとは言いがた難く継続した課題である。	・継続して研究の土壌を整備していく。	・いつも議題になるが、教員の時間的確保が大事であることは変わらない。学生に対するアンケートでも、研究になるかもしれない。 ・時間内の活動は学院も臨床も難しく自己研鑽的となりがちだが、研究意欲は常に持ち続けられると良い。 ・平素より教育方法等についての工夫、改善に取り組まれているようなので、教育に関する研究をぜひ積極的に発信していただきたい。 ・日々の業務が多忙であり、研究をする時間、場が少ない。 ・閉校も決まり、学年も減っていく中で、研究に充てられる時間が増えていくことを期待する。 ・教員が研究活動に興味をもって取り組むことができる配慮ができるとうい。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている	2.5			
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が本学院にある	2.2			